## (2) 保護者との連携で大切にすべきことは

#### (a) 保護者との連携では欠かせない教育相談

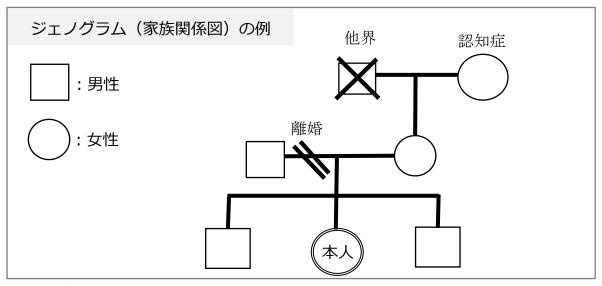
保護者とのやりとりは様々な形で行われていますが、特に、学習や生活、進路についてなど、児童生徒の教育上の課題や支援について話し合っていく教育相談は、保護者との連携を進めていく上で重要な位置づけにあると考えられます。国立特別支援教育総合研究所教育相談情報提供システム\*1のページで、教育相談について次のように述べられています。

子どものこれからの生涯を見渡した上で、現在の発達の程度や障害の状態に応じて、必要な支援・援助を行う幅広い活動のことを言います。特に学校での教育相談では、教育上の課題や子どもの教育に関して、本人・両親・教師・専門家(例えば医師やカウンセラーなど)が評価や話し合いをする中で、教育に関する指導助言を受けたり、与えたりすることを言います。

#### (b) 保護者の家庭環境を理解する

保護者との教育相談を進めていく上で、まずは保護者のおかれている家庭環境を把握することが大切になります。保護者、児童生徒本人がどのような家庭の状況で生活をしているのかを把握することで、保護者との適切なやりとりにつなげていくことができます。

下図のような『ジェノグラム(家族関係図)』を活用することにより、視覚的に保護者、児童生徒を取り巻く環境を把握することができます。このように、家庭環境を把握することで、保護者の生活のスタイルや価値観、どんな家族支援が必要なのかなどを理解することができます。



#### 【ジェノグラムについて】

時間的経過の中で、三世代以上の家族メンバーとその関係を視覚化した家系図の一種。家族関係図や世代関係図とも呼ばれる。家族の中で繰り返されている問題の特徴や、結婚、離婚、出産、死別など当事者にとって大きな影響を与えている出来事(ライフイベント)などと、その日付の把握によって、子ども自身や家族メンバーの歴史と現状を理解するために有効です。

<sup>\* 1</sup> 国立特別支援教育総合研究所教育相談情報提供システム < http://forum.nise.go.jp/soudan-db/htdocs/?page\_id=35>

#### (c) 保護者の背景を理解する

保護者は、子どもを育てる際に、何らかの悩みを抱えていることがあると考えら (れます。生徒指導提要では、以下の4つの視点で、「保護者とのかかわりが難しくなるとき」について示しています。教育相談では、このような保護者の背景を考えていくことが大切です。



#### ゆとりのなさ

◎ 保護者自身がゆとりに欠けている場合が少 なくない。



- ○経済的なゆとりに欠け、我が子の教育は二 の次とならざるを得ない状況があります。
- ○保護者の誰かが病気であったり、夫婦関係 や嫁姑関係、地域との関係などで悩み、親の 精神的エネルギーが吸い取られてしまってい る状況があります。

# 親行動を学び、身に付ける機会のなさ

◎保護者だからといって人格が完成しているとは限らない。



○適切な家庭教育を受けることなく育ち、それゆえによい親モデルに出会うこともないまま親になった保護者も少なくありません。手探りで育児をしている保護者の存在もあります。

#### 生じている問題の重さ

◎トラブルの原因となる児童生徒の問題が 大きく、周囲がいろいろと手を尽くしても 容易に改善されない。



○多動やパニック、暴力、重度のコミュニケーションの困難さなどを伴う場合、問題は簡単に改善されないため、無力感や将来への不安などが存在する場合があります。

#### 価値観の多様さ

◎保護者は保護者なりの教育意志を持って我が子を育てているものの、その価値観が教員や学校が重要視するものと大きく異なることがある。



○保護者自身が何を大事にして育って きたかにより、授業で求めるものや学 校に期待するものが違ってきます。

上記のような保護者の背景に目を向けることで、保護者がどのような状況におかれ、どのようなことに悩み、どのように子育ての難しさを感じているのかなどを理解することができます。教育相談では、このような保護者の背景を踏まえ、どのような対応が必要であるかを考えていきましょう。具体的な教育相談の方法等については、第IV章 – 2『教育相談の力を高めるコーディネートアイディア(例)』(223~237 p)で詳しく紹介していますので、ご覧ください。

### 理解しようとする心 相手の立場に立って考えたいですね!

